

学校運営協議会(記録) 令和5年2月28日(火)各部協議記録

【まなびづくり部】

○夏休みに予定されている「一ふれあい学習会」の計画をした。今年度は、子どもたちに参加募集をしたり、ボランティア募集まで行ったりしたが、コロナの影響で中止となってしまった。

今年度のボランティアは、海陽中の生徒、岱志高校の生徒にボランティア募集をした。来年度は、九看大の学生にもボランティア募集をする予定。

○子どもたちが、もっと読書に親むるために、読み聞かせの重要性について話題があがった。現在、朝活の時間にお話大好き会の皆さんに読み聞かせをしていただいている。現在、メンバーは母親中心なので、父親にも参加していただくともっと興味がわくのではないかと話し合った。小柳さんも参加予定。

○廃食用油回収をしている関係で、エコア熊本から「出前授業」のお知らせが来た。4年生に依頼してはどうか。

【こころそだて部】

○荒尾第一小学校「学校・生活のきまり」について

・前回の話し合いで少し意見をいただいた。内容としては、児童の行動制限するような文言が多いので、もっと前向きな表現にできるところは変えるようにするというのではないかと。また、「市立体育館」へ行っていいのではないかと。

・今回は、公園の使い方について話をした。現状からお菓子とペットボトルを持って行くことを禁止することにしたと言うことを説明し、このことについて意見をもらった。意見としては、食べることが必要な児童もいるだろうという意見や、クリーン作戦もしていることから、その経験を活かして、自発的にゴミ拾いをするように指導したらどうだろうかという意見も出た。制限することよりも考えさせることが大切ではないかという意見だった。

・きまりについては、子ども達に考えさせる機会をつくり、ルールの必要性についてしっかりと考えさせた上で維持・変更などしていくという流れになった。

・話の中で地域の教育力(例:公園のマナー違反について、地域の方が指導すること)については、いろいろな事情で声かけすることができないという意見も出て、その発揮については難しいと感じた。

○あいさつについては、いろんなところでできていないという意見が多かった。対策としては、登校班長を中心とした高学年があいさつの手本となれるように、声の大きさやタイミングなど、あいさつにおける基本的なものをしっかりと理解させることが大切ではないかという意見がでた。それから低学年への波及効果を期待したいという意見だった。

【からだくらし部】

○スマホ・タブレットの使い方。進んだ世の中に対応する必要がある。親が学び合う場が、PTA座談会や啓発会等で必要と思う。

○デジタル関係の学習の場が必要と思う。

○保護者のコミュニケーションスキルが落ちている。親がスマホをしているため、子供もスマホ依存になるのでは。

【その他 あいさつの件】

成清さんから ○地域で、子供たちのあいさつがよくないと聞く。

○まずは大人が見本となるように、PTAであいさつ運動をすることを考えている。

学校のハートフル委員会、民生委員のあいさつ運動との連携を。